高尾山山頂から発信！

のぶすま

「のぶすま」とは
ムササビの古い呼び名です。

チシオタケ（腐）

vol.65 季刊
2021年秋号

高尾山で見られるいろんなキノコ

高尾山では八王子で記録されている754種のキノコのうち、567種のキノコが見つかっています。※
キノコの本体である菌糸はそれぞれ異なった方法で栄養を得て生育しています。その過程で山内の様々な動植物と複雑に関わりあい、森の維持や他の植物に栄養を与えるなど、山の自然を支える重要な役割を担っています！

（※2016年八王子市動植物目録記載）

Twitterでふりかえる 高尾山ニュース！

高尾ビジターセンターのTwitter・Facebookをチェックしていただいているみなさま、いつもご覧いただきありがとうございます！
山頂の気温や天気、旬な自然情報などを毎日発信しています。
2021年7月～9月の間のツイートから、注目のニュースをご紹介します。

コロナ禍において、各地の自然公園で今までに見られなかったマナーに反する行為が見られています。そこで奥多摩や御岳山のビジターセンターと一緒に、自然公園の利用ルールについて発信しました！
ゴミ問題・盗掘・踏み込み・滑落・事故・道迷い！挙げればきりのない山の問題ですが、秋の紅葉シーズンに向けて改めてのお願いをしています♪

解説員こらむ vol.27

ドングリの旅

秋の実りと言えばドングリが有名ですが、皆さんは「貯食」という動物の行動はご存じでしょうか？哺乳類であればリスやネズミ等、鳥類であればカケスやヤマガラ等が行うことで知られています。彼らが好物のドングリを見つけた際にすぐに食べず、色々な場所に隠して取っておくことで、冬場の食物が少ない時期に備えておくという賢い作戦です。ただし、隠し場所を忘れてしまうことも多々あるようで、忘れ去られたドングリはその場所で芽を出し、徐々に大きな樹木へと育っていきます。つまり「動物たちを利用して遠くの場所へ旅をする」というドングリの作戦でもあるのです。

唐突ですが、私はカエルやヘビが好きでして、彼らと出会うために石垣の隙間の中をよく観察するのですが、たまにポツンとした一粒のドングリと目が合うことがあります。動物によって運ばれたこのドングリにとっては大失敗な旅だったのでしょう。石垣の中は日光や雨が当たらず、とても窮屈な場所で樹木へ育つのは困難です。私はそういった不運なドングリを見つけると、ため息交じりに掴んで近くの土の中に埋めてあげます。「あとは自力で頑張れよ」と思いつつ、もしかするとドングリの計算通りだったのかもしれません。

私たち人間や動物たちにとっての「食欲の秋」は、ドングリにとっては旅の季節です。ぜひ皆さんも高尾山へ足を延ばして、ドングリたちのように山内を旅してみませんか？

〈解説員　なかの〉

FUN FUN たかおさん

「のぶすま制作の裏側」の巻

作・絵：うめだ

「のぶすま」最新号とバックナンバーを、高尾山山頂にある高尾ビジターセンターにて配布しております。ご希望の方はビジターセンター窓口までお越し下さい。

季刊高尾ビジターセンターニュースレター「のぶすま」2021年秋号vol.65
東京都高尾ビジターセンター自然解説員作成　2021年10月1日発行
所在地：〒193-0844東京都八王子市高尾町2176　電話：042-664-7872　FAX：042-662-9926
（公式ホームページでバックナンバーが閲覧できます https://www.ces-net.jp/takaovc/）

○種名の()内は、どのタイプに属するかを腐生菌(腐)・菌根菌(菌)・寄生菌(寄)で表記しています

寄生菌のキノコ

動植物に寄生して、宿主から養分を吸収するタイプのキノコです。
主に昆虫類に寄生するキノコを総称して「冬虫夏草(とうちゅうかそう)」と呼んでいます。近年山頂付近では、カメムシタケをよく発見します。高尾山は昆虫も多い山!
カミキリムシやチョウの蛹(さなぎ)などに寄生するキノコも見つかっています。

ハナサナギタケ(寄)
チョウやガの蛹(さなぎ)に寄生

こんな感じで落ち葉に埋もれ、地面から伸びています

カメムシタケ(寄)
カメムシに寄生

テッポウムシタケ(寄)
カミキリムシの幼虫に寄生

まだまだ謎多きキノコたち

昔から食用などで身近にあるキノコですが、学術的にはまだまだ分かっていないことが多い、不思議な存在です。高尾山で観察されるキノコの中には、分類学上名前がついていないものも多く、高尾山では10種類以上のキノコが新種として発見されています。

高尾山で発見された、個性的なキノコ2種類をご紹介!

種名:**ムラサキヤマンバ**
1999年に発見(2006年新種記載)
山姥(やまんば)の髪の毛のような菌糸体の集まりが一緒に見られる、面白い形態のキノコ。
モミやヒノキなどの樹皮に束になって発生する。

解説員も見たことがない高尾山の希少なキノコ!

種名:**クロミノクチキムシタケ**
1977年に発見(1980年新種記載)
朽木の中にいる小型のカミキリムシの幼虫に寄生するキノコ(冬虫夏草)。高尾山以外での正式な記録はなく、環境省のレッドリストに「絶滅の危機に瀕している種」※として指定されている。
※カテゴリー:絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)

高尾山でのキノコ観察
採るのはやめて　見るだけね

高尾山では、貴重な自然資源を守っていくために動植物を持ち帰らないように
お願いしている自然公園の利用ルールがあるんだ!
写真に撮るとか、じっくり観察することで、多くのキノコとの出会いを楽しんでほしいな!

詳しくはこちら→『自然公園利用ルール』
https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/naturepark/know/rule/sakutei.files/Rules.pdf

みなさんは、高尾山でどんなキノコを見たことがありますか?梅雨から秋にかけては様々なキノコに出会える季節です。
キノコとは菌類の子実体のことを指し、その本体は地中に広がっている菌糸です。
つまり、高尾山の内部には、私たちが想像できないくらいのキノコの菌糸が生きているということなのです!
存在自体が山の自然を維持するための重要ポジションとなっている、なんとも不思議でなんだか惹かれるキノコの世界…。
このニュースレターが、高尾山にある様々なキノコと出会っていただくきっかけになれば嬉しいです。

〈解説員　やまもと〉

高尾山の
れきし
vol.27

高尾山のキノコ ～地域の文化と楽しみ方～

キノコの宝庫である高尾山。地域の人たちは昔から高尾山のキノコに親しみ、身近な食材として、また好奇心をくすぐる観察対象として楽しんでいた姿がありました。

秋の味覚としてキノコを楽しみにしている方も多いのではないでしょうか。高尾山では秋の紅葉シーズンになると、名物「なめこ汁」の問い合わせが一際多くなります。登山で疲れた身体を喉ごしの良い食感と絶妙な塩加減で癒してくれる人気メニューです。キノコを使った料理は高尾山の麓の地域で古くから親しまれており、幕末頃の書物『八王子名勝志』には、現在の東浅川町近くにキノコ茶屋があったことが記されています。

『椚田村　街道筋二丁余　此所右側に菌茶舎とて乾菌して種々の細工を鬻(ひさ)ぐ茶亭あり』

甲州街道沿いにあったため、多くの人がこの茶屋でキノコ料理を楽しんでいたのではないでしょうか。高尾山のキノコの歴史について調べていると、今も昔も高尾山のキノコを楽しむ地域の人の姿が見えてきました。

現在の高尾山では、キノコを含め動植物は自然公園の利用ルールで持ち帰らないようにお願いしています。利用ルールが制定される前の昭和62年発行の書籍には、茶屋もみじやの峯尾さんと金毘羅茶屋の山本さん(現在はどちらも閉業)による当時の高尾山でのキノコ採りの様子が書かれていました。『早朝のキノコ採りを日課にしている茶屋も多い。客に出すほどは採れないので、ほとんどが自家用。(中略)それでも、毎年、発生する場所を知っている地元の強み。一度に数十本の収穫がある。天ぷらやフライ、キノコ汁、キノコご飯、佃煮と、シーズン中はキノコを堪能する。』特に地元の人が楽しみにしていたキノコは、アカハツと呼ばれていた「アカモミタケ」だそうです。アカモミタケはモミに生えるキノコで、今でも高尾山に生育しています。山内は似たような形のベニタケ科のキノコがたくさんあるので、私には見分けられないのですが…。

食材としてだけではなく観察対象として楽しまれていた様子も書かれていました。『ブナの枯れ木に生えるツキヨタケは発光する。闇にボーッと輝き、それは、美しかった。最近は見なくなったナ。』とのこと。畔上能力氏著書の『ザ・高尾2　キノコの誘』には、昔4号路のつり橋付近で光るキノコ「ツキヨタケ」が観察されていたエピソードがありました。

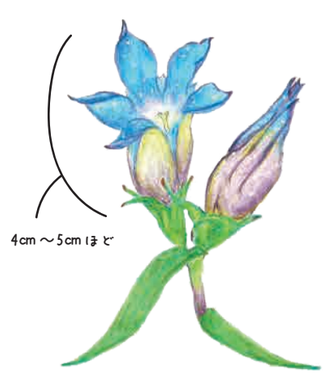
昔から食材として、また、観察対象としても身近に親しまれていた高尾山のキノコ。高尾山は567種ものキノコが確認されていているキノコの豊富な山です。同じ登山道でも歩くたび色、形、大きさなど見た目が全く異なるキノコを発見できます。この楽しさを知りいつの間にかキノコの虜になってしまいました。是非みなさんも、この時期にキノコ散策をして、疲れたらなめこ汁で一息つく、キノコ尽くしな高尾山を楽しんでみてはいかがでしょうか?

〈解説員　おざき〉

参考文献:「東京の山　高尾山　身近な自然を考える」、「ザ・高尾2 キノコの誘/畔上能力　著」

解説員の
レちおし
vol.23

リンドウ
花観察のおわりを告げる花



秋が深まり肌寒くなる時期、多くの花が咲き終える頃にリンドウが可憐に咲き始めます。目が覚めるような青紫色の花がこの時期ではよく目立ちます。花観察を趣味にしている方から「リンドウが見られるようになったら、お花のシーズンも終わりだね」なんて話しをよくお聞きします。朝早いと花が閉じていることが多いため、気温が上がり、陽があたる10時以降に観察するのがおすすめです。今年の花観察の締めに探してみてはいかがでしょうか?

花期:10～11月
見られる場所:5号路

〈解説員　こばやし〉